慶應義塾医学部新聞

発行所
三四会医学部新聞編集室
〒160-8582
東京都新宿区信濃町35
電話（3353）1211 内線6[illegible]
会員については会費に購読料が含まれる
発行人　末舛恵一
毎月1回20日発行

信濃町駅前・各種診療
慶應義塾大学病院
●診察時間＝午前9時～午前11時
●電話＝（3353）1211（大代表）

平成十六年度 大学卒業式挙行される

卒業生六、四九一名（医学部九十二名）

平成十六年度大学卒業式が三月二十三日午前十時より、日吉記念館にて行われた。前日からの悪天候も一旦回復し、雨上がりの銀杏並木は会場へ向かう卒業生とその家族達で埋まっていた。式典は午前十時を若干過ぎる時間に開始された。なお、本年度の卒業生は全九学部で六、四九一名、うち医学部は九十二名であった。

式典は開式の辞に始まり、まず黒田昌裕常任理事による学事報告があり、各学部の卒業者数および各表彰者数が報告された。次いで各学部への学位記授与が行われ、医学部卒業生代表として桑本朋吉君が壇上に上がった。続いて各種表彰が執り行われ、医学部からは、まず大学表彰規定による表彰、すなわち主席として小川瑛絵君が表彰を受けた。また小泉体育努力賞として医学部ゴルフ部から楠本大君以下七名が受賞した。最後に塚本絵美君が、アルツハイマー病の機序の解明と抑制因子の調査に尽力し、治療法の発展に多大な貢献をしたとして塾長奨励賞を授与された。その際、『研究成果は国内外から大きく評価』という件では会場から感嘆の声が上がっていた。

各種表彰の終了後、安西祐一郎塾長が式辞を述べた。塾長は家族と教職員の尽力に感謝すると共に、卒業生の門出を祝う言葉を述べた。その中でも社会に出るに当たって身につけて欲しい以下の『三つの力』について強調していた。

一、先導する力
一、独立する力
一、協力して生きる力

慶應義塾が創立以来大事にしてきた以上三つの項目をさらに磨き、志を持って未来へ羽ばたいてほしいと結んだ。

次いで矢嶋英敏・株式会社島津製作所代表取締役会長が塾員代表として祝辞を述べた。その後理工学部の越智庸介君が在学生総代送辞を読んだあと、これに対して経済学部の吉田智裕君が卒業生総代答辞を述べ、社会に出るにあたっての決意を述べた。最後は出席者全員で塾歌斉唱が行われ、午前十一時三十分に閉式となった。

引き続き同会場で二〇〇五年三田会結成式が行われた。終了後、医学部卒業生達は二十二番教室へと移動し、北島医学部長から各々に卒業証書が授与された。

色彩豊かな卒業式会場

論壇

卒業生諸君に贈る言葉

石井 裕正

学窓を巣立つ諸君、医学部卒業おめでとう。諸君がこうした人生における大きな節目を迎えるまでには、自身の努力とともにご両親・ご家族の力強い支えがあったことと思う。

諸君はいよいよ新しい人生への旅立の日を迎えるが、これまでに培ってきた医学に関する確かな基礎知識、鋭い分析能力や問題発見能力と創造力を、医学・医療の場に現実に活かしていくことが要求される。どのようにして知識と能力を厳しい現実に直面して活用していくかは、諸君ひとりひとりの人生観、生き方にもかかっている。医学・医療の世界においては、自分の狭い専門領域だけを見るのではなく、人間全体を深く広く見る目をもち、人類の幸福に貢献して欲しい。

ところで医学・医療界において、昨年から今年にかけては正にBig bangの年であり、過去五十年を顧みても例をみない大変革が遂行された一年であった。

卒後臨床研修制度の必修化をはじめ、病院経営ボードによる経営改革、平成十五年からの新カリキュラムに基づく教育改革と医学教育統括センターの発足、シミュレーションラボの活発な運用などが相前後してスタートした。さらにCOE獲得に伴う大学院生の増加や、サイバーメディカルスクール構想も具体化され、学生および大学院生にとって学習、研究環境が著しく改善ないしその兆しがみえたことは、誠に喜ばしいことである。但し、今年卒業する諸君は、学生としてはそれらの恩恵に必ずしも浴さなかったかも知れないが、卒業後、研修医として、あるいは大学院生として諸君の先輩達が改革、改善に努力した結果を身をもって享受して欲しい。今後はその大きく改善しつつある環境を生かして、学生諸君が内包している才能を最大限に発揮してくれることを期待したい。

私は昨年五月から四回に渡って本紙に掲載された、医化学末松誠教授（五月号、七月号）と生理学岡野栄之教授（六月号、九月号）による『学習：人間科学』を読んで、大変感銘を受けた。それらの内容にここで言及することは避けるが、末松教授の医学教育に対する緻密な現状認識、深い洞察力と批判精神、岡野教授の、慶應医学部創設期の加藤元一教授を始めとする教授陣を彷彿とさせる、情熱溢るるパイオニア精神と学生に対する信頼感に満ちた語り口は、読む者の士気を鼓舞する。もしまだ読んでいない学生諸君が居たら是非とも熟読して欲しい。

若い諸君は自分の人生のprofessional lifeのなかで最も重要な時期である今を、積極的に臨床あるいは研究に打ちこみ、将来の礎を築く心構えで、日々を充実して送って欲しいと思う。

私は新しい世紀を生き抜くために、若い人々に要望したい事項として以下のキーワードを提示したい。①Humanity 溢れる人間形成をめざす、②Challenging spirit に溢れていること、③Intelligence に富み、Intellectual であること、④Communication ability を磨くこと、⑤Ambitious であること、⑥Global mind を持つことである。

二〇〇四年以後、医学の教育、診療、研究すべての分野で改変・改革がおこりつつあるなかで、諸君はそれらに対応するための意識改革をしつつ、新しい制度の荒波を乗り切って社会の先導者になって欲しい。それが福澤精神の後継者たる所以である。

最後に、諸君に福澤先生の言葉を贈って結びとしたい。

一八七八年といえば慶應義塾創立二十年、福澤先生四十三歳の血気盛んな頃であったが、西南の役の影響もあり、義塾をとり巻く環境にも酷しさが加わり、学生数が十年前の半数以下に減少し、経済的にも最も苦しかった頃の正月、教員を三田山上の自宅に招集し新年会を開いた時の挨拶の一節に下記の言葉がある。

『よく風浪を冒して大海を渡り、海面に痕を破りたる痕跡を遺して、始めて船の船たるを見る可きなり』と。

開塾二十年、大きな岐路に立ったこの時期に、弟子に吐露した福澤先生の心情が如実に伝わってくる一節であろう。

いずれにせよ、福澤先生は人間として同じ一生を過ごすならば、しっかりとした足跡、痕跡を残したいと願っておられたのである。福澤先生の漢詩の一節に『五十人生須有痕（五十人生すべからく痕有るべし）』ともある。諸君もそれぞれの分野で、できるだけ長く大きい痕跡を残すように願っている。

（名誉教授　内　42回）

新研修医参加者決まる

慶應病院は 一年次 二年次 3745名 体制

新医師臨床研修制度が開始され、早くも一年が過ぎようとしている。新制度の下、研修医は診療科に属することなく、大学病院研修医または協力型臨床研修病院研修医としてこの一年を送ったことになるが、EPOC（Evaluation system of Postgraduate Clinical training）（通称エポック）オンライン臨床研修評価システムの導入の遅れや当直体制の運用方法の問題点もあり、引き続き次年度に向けての課題が残されている。

慶應病院のプログラムとしては、たすきがけ方式を取り入れている関係上本年四月の時点で、一年間協力型臨床研修病院で研修を続けてきた研修医三十七名が慶應病院に戻り、逆に一年間慶應病院で研修を受けた二十五名が協力型研修病院に出向することになる。これに平成十七年度新研修医としては本年四月採用された七十四名（歯科・口腔外科研修医八名を除く）が加わるのだが新研修医の内一年目は四十五名が慶應病院で研修を受けることになるので平成十七年度の慶應病院の研修医総数は一年次生四十五名、二年次生三十七名の計八十二名となる。なお、四月一日から九日までオリエンテーション（資料1）が実施されるが、今年度は眼科、泌尿器科、救急部、中央臨床検査部、輸血・細胞療法部等、その他多くの関係部署のご協力をいただき、充実した実習を実施することになっている。

なお本年度の卒業生九十二名のマッチングで決定した研修先病院は資料2の通り。

平成17年度　新研修医オリエンテーション日程

会場　新教育研究棟講堂3（慶應義塾大学医学部構内　新教育研究棟4F）　（資料1）

日	時	講義内容	講師	
4月1日（金）	8:30～8:45	訓示	病院長	相川 直樹
	8:45～9:00	慶應義塾大学医学部の現状について	医学部長	北島 政樹
	9:00～9:30	卒後臨床研修センターについて	卒後臨床研修センター長	河瀬 斌
	9:30～9:50	医療安全対策	医療安全対策室室長	半田 誠
	9:50～10:10	初期臨床研修プログラムと研修評価について	内科学助教授 卒後臨床研修センター副センター長	吉川 勉
	10:10～10:30	（休憩）		
	10:30～11:00	より良い患者－医師関係を築くために	東京SP研究会	佐伯 晴子
	11:00～11:20	感染症対策	内科学専任講師	長谷川 直樹
	11:20～11:40	診療録の書き方	小児科学助手 卒後臨床研修センター副センター長	福島 裕之
	11:40～13:00	（昼休み）		
	13:00～15:00	ビジネス社会における接遇マナーの基本および病院におけるマナーの役割	ミッション	田中 久美
	15:00～15:20	介護保険制度	リハビリテーション医学教授	里宇 明元
	15:20～15:40	慶應医師会・三四会について ＊当日慶應医師会・三四会加入受付	産婦人科学助教授	末岡 浩
	15:40～16:00	（休憩）		
	16:00～16:20	保険医療制度	保険医療指導部副部長	平野 達人
	16:20～16:40	予防医療	保健管理センター専任講師	横山 裕一
	16:40～17:00	医療の場で必要とされている各種書類	医療事務室部長代理	滝口 幸子
	17:00～17:40	EBM、PBLについて	外科学専任講師 卒後臨床研修センター員	矢[illegible] 貴仁
	17:40～	アンケート（用紙記入あり）		

4月2日（土）～9日（土）（個別スケジュール作成）
：ACLSオリエンテーションコース
：血液型判定・交差適合試験
：採血、静脈ライン確保、心電図、導尿、前立腺触診、眼底診察
：サテライトファーマシー見学
：模擬患者体験
：ワークショップ
：PCオリエンテーション
：院内オリエンテーション
4月11日（月）：研修開始
※1年次、協力型臨床研修病院で研修を受ける場合は、4月6日（水）までがオリエンテーション

病院別集計　（資料2）

病院名	
慶應義塾大学病院	40
川崎市立川崎病院	5
栃木県済生会宇都宮病院	4
平塚市民病院	4
北見赤十字病院	4
独立行政法人国立病院機構東京医療センター	3
亀田総合病院	3
横浜市立市民病院	2
国保旭中央病院	2
済生会神奈川県病院	2
川崎市立井田病院	2
麻生飯塚病院	2
けいゆう病院	1
さいたま市立病院	1
東京大学附属病院	1
トヨタ記念病院	1
沖縄県立中部病院	1
京都南病院	1
済生会横浜市南部病院	1
東京都済生会中央病院	2
聖マリア病院	1
聖路加国際病院	1
静岡赤十字病院	1
天理よろづ相談所病院	1
東京厚生年金病院	1
東京歯科大学市川総合病院	1
東京都立墨東病院	1
北里研究所病院	1
国家公務員共済組合連合会立川病院	1
練馬総合病院	1

84回生謝恩会

東京帝国ホテルで開催

小雨に煙る三月二十四日の宵、84回生の謝恩会が帝国ホテル富士の間において開催された。丁度その頃、雨の甲子園では四十数年ぶりに三色旗が掲げられたとのニュースもあり開場前の参加者の間ではその話でもち切りであった。

午後七時、吹奏楽団の演奏開始と共に卒業生による人の列の間を歓迎の拍手を浴びつつ来賓を先頭に、教職員、父兄など参会者が日本舞踊の女子学生にリードされ入場した。全員が入場した後、卒業生の川野泰司、川上瑞枝両君の司会により謝恩会が開始された。

恒例の来賓挨拶は塾長はじめ常任理事、医学部長、院長および三四会長などが祝詞と共に医師としての将来への期待、先輩としての助言には社中に対する激励として述べられていた。その要旨は次の様である。

安西塾長『現在順調に進んでいる医学部病院の改革をよりよい方向へ進める為には若い力が必要であり更にその成果をもって慶應卒の医師として世界に冠たる慶應医学を樹立してほしい』

猿田常任理事は『卒後に活躍する医学・医療の世界がよりきびしいものになることを自覚し責任ある行動をとると共に級友はじめ人の和を大切にすることは大切で同時に母校のことを忘れない様に』

北島医学部長『医師たる者は周囲の雑音に惑わされることなく患者の幸福を願い全面的に努力すべきである。学生の[illegible]が『医師になる前に人であれ』[illegible]心のケアが出来る医師に』と述べた言葉に将来への展望を感じた。

末舛三四会長『天変地異がいかに起こっても人の心を知り世の中を理解出来る医師となるにあたっての一言『明日からはミスターでなくドクターになる。慶應卒のドクターであることを誇りに、三色旗をバックにして世界に羽ばたいて欲しいし又そのことを心から願っている』

次いで卒業生が一人ずつ壇上に立って挨拶、自己紹介と自らの将来像を述べたのだが多くの女子学生が華麗な姿で優雅に語りかけたのに対し男子学生の平凡な容姿と稍軽薄気味の演説調が少なかったのは些か対照的との声が会場で聞かれていた。

一通りの挨拶が終了し三四会長から卒業生代表に記念品（目録）が贈呈、卒業生からは学校に対し時計が贈られた。

宴も終りに近く、参加者全員がスクラムを組み『若き血』の大合唱が会場に響き84回生による謝恩会はその幕を閉じて行った。

卒業後の抱負を述べる小宮山さん

医学部学生に寄付

経済支援奨学金として

助講会

慶應義塾大学医学部助講会（会員数一三八名）の平成十六年度総会は平成十七年一月二十一日に第一会議室で行われた。助講会では会員の親睦、さらに社会、義塾、学部の活性化を図るために会費を活用する「社会活動」を行っている。例年総会で議決することになっている。本年度は[illegible]ではあるが、昨年末に新潟県中越地震への義援金（「一〇〇万円寄付」）を緊急動議し、緊急寄付を行った。[illegible]付活動としては、様々な寄付活動が提案されたが、「医学部学生経済支援奨学金への一〇〇万円の寄付」が多数であり採択された。[illegible]後二月末に、医学部支援委員会の指定寄付口[illegible]を与えようという主旨で設立された。助講会の寄付活動として大変ふさわしいと、当日は満場一致で議決された。助講会としては、選考委員会に期待し、学生が少しでも学業に勤しめるように、応援していきたい。

（提供　川合陽子　52回）

医学部学生経済支援奨学金制度

経済的な事情により学業継続に支障を来した医学部学生を支援する目的で平成十六年三四会からの寄付により給費の学生経済支援制度が発足した。本制度運用にあたって委員会（委員長石川博道教授）が担当するが担当の窓口は学生総合センター信濃町支部（☎03－3353－1211 内線62141）。なお本紙2月号に石川博道教授寄稿による本制度の解説を掲載。

第13回 高度先進リハビリテーション医学研究会開催

二月二十六日午後一時、北里記念医学図書館二F北里講堂で第十三回高度先進リハビリテーション医学研究会が開催された。今回は「介護保険制度の展望―先進リハビリテーション医学の介入」という表題のもとにとりおこなわれた。研究会は、千野直一名誉教授（リハ 45回）の開会の挨拶によって始められ、千野教授は今こそ先進リハビリの開業が問われていると述べた。研究発表は三浦公嗣厚労省老健局老人保険課長が「行政の立場から 介護保険制度の今後」、印南一路総合政策部教授が「医療政策の立場から介護保険の展望」、里宇明元教授（リハ）が「リハビリテーション医学の立場から『仮の要介護状態』への対応」、大須理英子国際電気通信基礎技術研究所主任研究員が「神経科学の立場から計算論的神経科学とリハビリテーション」と題して講演が行われた。この講演に引き続き指定発言がおこなわれ高山寧子先生が「介護家族の立場から」、藤原康子済生会三田訪問看護ステーション所長が「居宅介護支援の立場から」、鈴木紀郎NHKエデュケーショナル・エグゼクティブプロデューサーが「市民の立場から」と題してそれぞれ発言をおこなった。香和歯医学部長補佐、相川慶應医師会長の挨拶がおこなわれた。

里宇教授の講演に対して早期リハ専門医を関連病院に派遣してほしいと要望の発言があったが、人的資源の不足はリハでも早急に解決すべき問題となっていることが示された。なお出席者は約一〇〇名を数え、リハへの関心の高さをうかがわせた。

研究会の後、慶應病院の向かいに位置する「森のレストラン」でおこなわれた意見交換会は、岡山から座長で参加された先生もあり、さながら慶應のリハ・リーダーがほぼ全員集合という感じで活発な意見交換がおこなわれていた。

三四会定例理事会

—17・3・25—

報告事項

一、二月十二日、第75回生涯教育セミナー（テーマ「歯科疾患と全身とのかかわり合い」）明治記念館で実施。内容は本紙三月号三面に掲載。

二、二月十七日赤倉山荘運営委員会開催、担当理事が数カ月にわたり塾と交渉し最終的には財務担当清木理事との交渉により山荘運営は今迄通りとし年間三四会負担は一〇〇万円とする案に決着。

三、各地三四会会合
足立三四会（二月十九日）豊島区三四会（二月二十六日）会長代理出席

四、三月二十四日84回生による卒業謝恩会が帝国ホテルにて開催、会長出席

五、名簿発行の進捗状況としては印刷所から資料として個人情報保護を加味したサンプルの提示あって検討実施。

審議事項

一、赤倉山荘運営資金に関しては十年前の一二〇〇万円負担から前記報告事項の通り本年迄二三五〇万円であったが次年度からは一〇〇万円の案提出。

二、平成十六年度決算および十七年度予算案を対比して広報関係費の予算にしめる％のバランス上その伸び率が突出していることおよび収入減の傾向のことを考慮し広報関係予算の削減はじめその他削減可能な項目を考慮する。

三、三四会役員改選に関し学年、クラス、教室、支部評議員候補の提出は受理したが部分的に未決の箇所もある。

四、次期会長選任に関し会則により現会長が比企監事の推挙を諒承した。

五、役員選考委員を四月十五日迄に決定する。同一人が複数の部門にあっても在来通りとする。

六、女性医師支援に関して前回理事会での提案は継続とし、議案内容を再検討の上再提出とする。なおこの件に関し複数の意見あり。

七、三四会事務員について契約期間（現行三年間）を再検討する。当面は現在員を更新にする。

落穂

研修制度で更なる成長を

ようやく暖かい春らしい日が多くなり、一部では桜が咲き始めたというニュースも入ってきた。卒業シーズンである。今年もまた、多くの学生が巣立っていく。新制度の研修も二年目となり、研修医も研修病院も昨年よりは落ち着いて研修のスタートを迎えられるのではないか。卒業する学生も新制度一年生の先輩から多くの情報を入手してマッチングに臨んだようであるし、その分納得できる研修先が見つけられたことを期待する。今年のマッチングの結果からも、塾卒業生が塾外のいろいろな研修先で初期研修を行うことが見て取れる。昨年の結果を踏まえ、今年は昨年のA、B2コースに加え、慶應病院で二年間の研修を受けるCコースが設けられた。三コース共に、塾卒業生と他大卒が大体半々ということのようである。

多くの塾卒業生が関連病院独自のプログラムを含め、塾外の施設で研修をすることは大変結構なことである。ともすれば純粋培養になりがちな環境から、広い世界の中で他大の卒業生とともに研修に励むことにより、これまで見えなかった多くのものが見えてくるものと期待する。そして外で得た多くの経験を慶應病院へ戻ってからの後期研修に活かしてもらいたいものである。新制度一期生が戻るのは来年であるが、それまでに慶應病院の中にどれだけ魅力のあるプログラムが用意されているか、卒業生は注目していることだろう。一部の卒業生は慶應病院へ戻って来ないかも知れないが、それもよかろう。外の世界で大いに研鑽を積んで、塾の名を高らしめてもらいたい。

今後の医学界は、好むと好まざるとにかかわらず、研究はもとより臨床においても多くの大学の卒業生が同じ場で切磋琢磨することで前進していくようになるだろう。その鍵として塾卒業生が大いに活躍することを念願する。今後も医学部が、慶應病院や関連病院において、さらには外部の研修期間において、塾卒業生が自分にあった研修先を見つけて成長することに惜しみない努力を傾けてもらうことを期待するものである。（T）

平成十七年度 三四会員が会長担当の定例学術集会

—四月～六月開催の集会—

（日本学術会議又はそれに準ずる学術集会。但し支部会は含まない）

学会名
一、会長名 所属
二、会期
三、（開催地）会場

第78回日本細菌学会
一、内山竹彦（微 46回）東京女子医科大学微生物学免疫学教授
二、四月四～六日
三、（東京）江戸川区総合区民ホール

第24回日本病理学会
一、長村義之（病 49回）東海大学病理診断学教授
二、四月十四～十六日
三、（横浜）パシフィコ横浜

第3回世界乳房健康協会
第5回アジア乳癌学会
一、田島知郎（外 42回）東海大学教授 東京病院
二、四月二十一日～二十三日
三、（東京）京王プラザホテル

第6回国際胃癌学会
一、北島政樹（外 45回）医学部長
二、五月四～七日
三、（横浜）パシフィコ横浜

第80回日本結核病学会
一、川城丈夫（内 45回）独立行政法人国立病院機構東埼玉病院院長
二、五月十二～十三日
三、（埼玉）大宮ソニックシティ

第18回日本脳死・脳蘇生学会
一、神野哲夫（外 44回）藤田保健衛生大学脳神経外科教授
二、六月三日
三、（愛知）名古屋マリオットアソシアホテル

お願い

教室の人事消息、主催する行事など、三四会員への弘報として適当な事項をお知らせ頂く目的で毎月「連絡表」をお回し致しておりますのでご記入の上ご連絡下さる様お願い申し上げます。

編集室

公告

三四会員各位

慶應義塾大学医学部三四会の役員および評議員の任期は来る平成17年6月11日を以って満了します。三四会会則施行細則第12条により、三四会役員および評議員の改選を施行いたしますことを公告します。

平成17年1月28日

三四会会長　末舛恵一

（本掲示を以って三四会会則施行細則第12条の公告に代えます）

慶應義塾大学病院 休診のお知らせ

4月23日（土）は慶應義塾開校記念日のため休診と致します

病院長

慶應医学会例会

下記のとおり例会の演題に変更がございますので、再度ご案内申し上げます。

記

日時　平成17年4月13日（水）午後6時30分
場所　新棟中会議室
演題　"Management of Displaced Radial Head Fractures" focused on Radical Head Arthroplasty, case report, long results, pitfall of surgical technique&biomechanics
演者　Graham JW King, MSc, MD, FRCSC
Hand and Upper Limb Centre
St.Joseph's Health Centre
Department of Orthopaedic Surgery
Ontario, CA
担当　皮膚科学教室
責任者：戸山 芳昭教授
担当：池上 博泰先生（内線：62344）
主催　慶應医学会　共催　慶應医師会

お知らせ

慶應義塾長　安西祐一郎

平成十七年度大学入学式並びに大学院入学式を左記の通り挙行致しますので、ご出席下さるようご案内申し上げます。

記

大学入学式
四月四日（月）午前十時　日吉記念館
（午前九時三十分までにご入場下さい）

大学院入学式
四月七日（木）午前九時　三田西校舎ホール
（午前八時五十分までにご入場下さい）